isumi-style.com

いすみスタイル.com ドットコム
isumi-style

Vol.9 2014 Spring

NPO法人いすみライフスタイル研究所が発行する、いすみライフを応援する不定期刊行のニュースレターです。
WEBサイト「isumi-style.com」より抜粋してお届けします。

いすみの魅力

▶ 大原はだか祭り

大原はだか祭りの歴史～時代とともにあるマチ～

『大原はだか祭り』は古くから漁業で栄えたこの地域に伝わる大漁祈願、五穀豊穣祈願の祭りです。「大原の男たちは指折り数えて、マチを待つ」と言われるほど、地域に深く根付いた文化です。

■祭りのはじまり

鹿嶋神社の神輿の屋根板に「貞享4年」との書き付けが発見されたこと、1840年代に瀧内神社に奉納された絵馬に賑わう祭りの様子が描かれていることを元に、約300年以上前に祭礼が行われていたと推測されています。

昔は「何を質に入れても祭りの仕度を調えた」と言われるほど、御馳走や酒を準備し、振る舞ったそうです。

■祭りの日程

旧暦の8月13日～15日に行われていましたが、改暦により、明治6年から9月23日、24日、25日の3日間となり、大正2年からは9月23日、24日の2日間と定められました。

現在は秋分の日に合わせて2日間、開催されています。地元を離れている人達もこの日ばかりは「マチ」のために故郷へ帰ってきます。

■祭りの衣装

古くは神社の例祭としての儀式の色が強く、一家に一枚と、担ぎ手の数を神社が管理していました。「白丁に烏帽子姿」から大正末期より「派手な手差しに腹巻き、白の股引」へと変わり、戦後「黒の手差し、腹巻き、脚絆」と現代と変わらぬ格好になりました。

1973年千葉国体の開会式に、大原の神輿が16社1200名で参加した後、全国に知られるようになり、「村祭り」から「大原はだか祭り」と呼ばれるようになりました。

御輿をつくる氏子たち

大井瀧内神社に残る絵馬

▶ 大原はだか祭り体験レポート

9月22日、大原八幡神社の渡御に参加させていただきました。

祭り当日、向かったのは貝須賀・鹿嶋神社。そこから大原漁港まで約2.8km、渡御がスタート!「ほらやっさ」の掛け声で、大原漁港へ向かいます。

漁港に集まった神輿は追い付け追い越せの勢いで漁港荷捌き所を走り、その後各神社、神輿を高く投げ上げ、周りからは拍手喝采が起こります。

そして祈願祭、「汐ふみ」と続きます。

大原海水浴場に整列した神社は神輿を高く掲げ、次々と海へ。現在は約10社の神輿が「汐ふみ」をします。

各神社はその後商店街渡御へ。途中、祭唄(祭り人は「マチウタ」といいます)がはじまり、合いの手が入りとても賑やか。

夕方薄暗くなってくると、「大別れ」へ。

大原小学校の校庭に神輿が集まり、とにかく走る!

それが終わると神輿を掲げて合わせ、「マチウタ」が唄われ、提灯の明かりが幻想的な雰囲気。

「大別れ」とはいいますが、祭りはこれで終わるわけではなく、近所の神社への渡御へと続きます。初日の宮入りは夜12:30過ぎ。

翌日、氏子は7時半には神社に集合。大原八幡神社は村廻りを昼過ぎまで続けます。

大原八幡神社の2日目は、「接待」の時間も多い。この「接待」とは、訪れる他の神社の神輿を迎えることです。神輿は神社に着くと勢いよく走り出だします。迎える方も神輿を掲げて歓迎。

夕方からは前日と同じ商店街渡御、「大別れ」、そして「接待」へと続きます。

夜9時半ごろ、浜の3社へ渡御に。この頃は土砂降りでしたが、迎える方も温かい食事を用意して出迎えてくれるあたりは、大原人の祭りに対する心意気を感じます。

帰社後、私はそこで失礼しましたが、その後も神社では朝まで「接待」が続きます。今回のはだか祭りでは、大原八幡神社は朝7時ごろ宮入りだったそうです。

煌びやかな神輿や威勢のいいあんちゃんたちを眺めるのも一つの楽しみ方ですが、思い切ってやってみるのもなかなか。

最初は溶け込むのに時間がかかりますが、一緒に神輿を担いで「マチウタ」を唄えば絆が生まれるような気がします。

いすみの朝市特集1

外房で朝市と言えば、勝浦の朝市が有名ですが、いすみでも、実は朝市が行われています。最近では、毎月第3日曜日に大原漁港で開催されている「港の朝市」が知られるようになってきました。それ以外にも、小さいながらも古くから続いているものがあります。今回は、そんないすみの「小さな朝市」をご紹介します。

●大原の朝市

JR外房線大原駅前に長く続く商店街。その商店街の南、大原小学校手前にある大原八幡神社での朝市(毎月3と8の付く日開催)にお邪魔しました。

お店に並ぶもので、季節を感じることのできる朝市。あるお店では、冬には手作りのこんにゃくを並べます。

この辺りではこんにゃくの手作りも珍しくはないそうですが、農家さんの日常はなかなか知りえないところ。朝市では、「伝統的な農家の生活」、「おばあちゃんのなんでも手作りライフ」を垣間見ることができます。

ほとんどの方が何十年も出店されているベテラン。客足は年々減るものの、「それでも来てくれるお客さんのために、店を出さないわけにはいかない」と、自家産の農水産物を持って足を運び続けています。

朝市は、その時の「旬」を知る、作った人と顔を合わせて買うことができるというのが売り。「遊びに行く」という感覚で朝市を覗いてみるのも楽しいですよ。

【開催日】毎月3と8の付く日(午前中)
【場所】大原八幡神社(千葉県いすみ市大原8637)JR外房線大原駅より徒歩5分

●苅谷の朝市

いすみ鉄道国吉駅前の苅谷商店街での「苅谷六斎市」の開催日は毎月1と6のつく日です。なんと戦国時代から続いている歴史ある市。

昔は30店舗以上のお店が並んだそうですが、取材の日は海産物、八百屋、金物屋、お漬物やお餅を売っている方の4店舗の出店でした。お店の前には椅子が置かれていて、買い物に来た方がここに座って楽しそうに井戸端会議をしていました。

出店者さんの朝市歴は長い方でなんと50年!常連様もお客様歴50年!ここに来る人は常連さんがほとんどで、ほとんどの方が顔見知りなんだそうです。

「寒いのによく来たな〜」、「今日は○○はいってるよ〜」と言ってお客さんの求めているものや嗜好をすでに皆が把握していて心温まる光景でした。

朝市の魅力は「スローフード」ならぬ「スローショッピング」のイメージです。商品を仕入れた人、作った人が直接売ることで信頼関係も築けるし、会話も作り方や保存方法の知恵など幅が広がりますね。脈々と受け継がれ、地域に根ざしてきた朝市、是非一度訪れてみてください。

【開催日】毎月1と6の付く日(午前中)
【場所】いすみ市苅谷公園(千葉県いすみ市苅谷1148)いすみ鉄道国吉駅より徒歩5分
【お問い合わせ】苅谷商店街振興会(0470-86-2012)

●長者の朝市

岬町長者の朝市は4と9のつく日。350年以上の歴史があります。

全盛期は商店街通りいっぱいに百店舗以上が立ち並んだそうです。夜明けとともに始まり、行商の野菜、魚、味噌の計り売りなど何でも手に入りました。現在、出店は数店舗。買い物に来るのは近所のお年寄りがほとんどです。

出店しているおばあちゃんの話。「朝市はお客さんと話しながらなら販売できるのが楽しみ。だから朝市に来る。でも馴染みのお客さんは減るし、出店する仲間も減っていくと、私もいつやめようかと考えているんですよ」。

場所が移動になったのをきっかけに、こうした状況を変えるべく、地元の有志によって「朝市再興プロジェクト」が発足しました。出店者に配慮し、作りつけの屋根やベンチを設置、地元小学生が作ったのれんで賑やかな雰囲気を演出、2012年にリニューアルしました。大型スーパーでいつでも欲しいものが手に入り、今までのスタイルで朝市を続けていくことは難しくなっています。

生産者とお客さん、顔と顔の見える元祖ファーマーズマーケットの醍醐味を4(シアワセ)に感じる人が9(クル)ことを願って、これからも応援していきたいですね。

【開催日】毎月4と9の付く日(午前中)
【場所】長者町商店街(千葉県いすみ市岬町長者458)JR外房線長者町駅から徒歩10分

地域や子どもと丁寧につながっていく― パヴェルさん・栄子さん家族の童話的ライフ

テレビ業界で映像ディレクターをし、「リターン」という映像製作会社を経営している栄子さんとパヴェルさんは都内から岩船に2010年に移住。古い家を購入し、少しずつ手入れをしながら暮らしています。

チェコ共和国出身のパヴェルさんは、家をはじめ、なんでも自分でつくってしまうくらいとても器用。そして元々絵を描くことが好きでした。ある日、家の前のごみ箱が汚れてしまっていることが気になっていたため、絵画教室の一環として、子ども達に絵を描いてもらい、一緒にゴミ箱作りをやりました。するとご近所さん達が、パヴェルさんの真似をして、自分たちもペンキを塗ったりし、岩船地域の収集場所がきれいになっていったそうです。1枚の絵から地域活動が生まれ、地域の人とのコミュニケーションが生まれたのです。それがきっかけで、パヴェルさんのところに絵を教えてほしいと子ども達が集う様になりました。「家と学校以外の子ども達の居場所になればうれしいですね」と、栄子さんは語ってくれました。

東京での仕事は今でも引き続きうけつつ、伊勢えび漁や力仕事など、地元の方のお手伝いもしています。「大原はだか祭り」では神輿も担いでいます。

少しずつ築きあげてきたご近所さんとのつながりは、ここで暮らしていく安心感へ繋がっていました。積極的に色々な人と話をして、地域とかかわりを持つ努力をしていることも大きいかもしれません。「いなかは日本的なものが凝縮されている」とお二人は言います。

最近では、人形と小道具を自分たちで作り、「赤ずきんちゃん」などの人形劇をイベントで上演し、子ども達を楽しませています。

手作りでつながっていく、古き良き日本を思わせる丁寧な生き方を、ここいすみの岩船で感じることができました。そして、地域の人たちとつながり、親しまれる異国の人、パヴェルさんの生き方は、童話に描かれているような世界でした。

NPO法人いすみライフスタイル研究所の活動（イベント・情報発信・広報活動）

牧場婚活

1月18日に高秀牧場にて牧場婚活を開催しました。ケーブルテレビ"ララTV"「女のハローワーク」の取材も入りました。

男性7名、女性8名が参加。乳搾り体験や、ミルク鍋＆石窯ピザづくりでお昼を楽しんだ後は、ペアになって広大な芝生の上で牧草転がしゲームなど、おもいっきり体を動かしました。途中雪降る寒さの中でしたが、寒さも吹き飛ばす熱い？カップルの誕生はいかに！？

椿公園婚活

3月8日に婚活イベントを開催しました。男性6名、女性4名が参加。さわやかな早春の天候に恵まれ、椿公園でチームに分かれ謎解きトレッキング。お昼は海鮮三昧ランチ♪海を見て春の風物詩、菜花摘みを行いました。イベント終了後はカフェgreen+でのんびりお茶タイムを楽しみました。

酒蔵＆チーズ工房ツアー

昨年10月5日に開催された酒蔵見学では木戸泉酒造の麹室や貯蔵庫などを酒造りの順を追って見学。試飲では貴重な古酒を味見させていただきました。続いて高秀牧場でチーズランチと搾乳体験。いすみの新しい食のコンビネーション「日本酒」と「チーズ」を堪能したツアーになりました。

房総いすみでドラマロケ地を巡る旅

2月15日に、NHKドラマ「菜の花ラインに乗りかえて」のロケ地を巡るツアーを開催。前日の大雪の影響で予定をしていたいすみ鉄道が運休、7名の参加となりましたが、実際に撮影に使われた駅や場所など裏話を踏まえてご案内。テレビで見ていた景色が目の前にある楽しさがあったようです。

ゆるきゃら祭りin ちまち

2月9日に開催された「ちまちマ」では近隣市町村のキャラクターが集合。前日の大雪の影響で大多喜町は欠席となりましたが一宮町、御宿町、勝浦市が参加。いすみ市キャラクター「いすみん」と「チーバ君」も登場し、小さな子ども連れの家族で大変にぎわいました。

お魚さばき方道場

昨年11月10日、地元漁師さんを講師に迎え、「お魚さばき方道場」と題し調理ワークショップを開催。漁師さんならではのさばき方と魚をおいしくいただけるレシピに、参加者の方は興味津々でした。試食を兼ねたランチ会も、おいしく楽しいものになりました。

環境省『平成25年度地域主導型再生可能エネルギー事業化検討委託業務』の採択

2011年の東日本大震災と福島第一原発事故以降、エネルギーのあり方、使い方が見直されはじめているようです。最近、市内でも太陽光パネルをよく目にするようになりました。そんな中、当NPOが環境省『平成25年度地域主導型再生可能エネルギー事業化検討委託業務』の採択を受け、その推進団体として「いすみ自然エネルギー推進協議会」が2013年10月に設立されました。いすみでの再生可能エネルギー普及の具体化に向けた検討がなされています。3月15日には、岬ふれあい会館で「房総エネルギーと里山フォーラム」というイベントが行われました。太田市長が来賓挨拶をされた後、環境エネルギー政策研究所理事・主席研究員の松原 弘直さんの基調講演、川西諭、上智大学経済学部教授をコーディネーターに『エネルギーの未来を考えてアイデアを話し合う 市民自由参加ワークショップ』が行われました。

農林水産省『平成25年度都市農村共生・対流総合対策交付金共生・対流促進計画』の採択

都会にお住まいの方々の自然回帰指向や田舎暮らしへの関心の高まりから、農村への関心も年々高まってきているようです。その流れの中で、当NPOを中心に2013年9月「いすみ未来のふるさと協議会」を設立し、農林水産省『平成25年度都市農村共生・対流総合対策交付金共生・対流促進計画』の採択を受けました。「いのちをつないでいく地域づくりを、いすみで」をビジョンに掲げ、「いすみの豊かな光景を次世代に残す」、「生きやすい・暮らしやすい田舎をつくる」、「いすみのファンを増やす」をミッション（任務）として活動を開始。いすみの魅力を都市へ向けて発信、来てもらい、その良さを体感していただく。いすみの農作物、加工品の良さを実感していただき、固定客になっていただく。そのために、都内や千葉市など都市部でのイベントへの参加や市内でのイベントの開催などの活動をはじめています。

「NHK地域放送文化賞」受賞

放送を通じて地域放送文化の発展に尽くした団体や個人に贈られる「ＮＨＫ地域放送文化賞」。関東から2つの団体と個人が選出され、当NPOがそのひとつに選ばれました。報道番組やドラマの撮影など、千葉放送局の皆さまと一緒に取り組んだことなどが評価されての受賞となりました。

各地からの研修受入れ

いすみ市と当NPOの官民協働で移住事業と情報発信事業に力を入れ積極的に活動している事が注目され、他地域からの視察、研修の依頼が後を絶ちません。昨年12月13日には近隣の茂原市、12月18日～19日長野県小諸市、今年2月24日には茨城県大洗町のみなさんが視察にいらっしゃいました。日々の業務から市の取り組みについてなどお伝えするとともに、お互いに様々な意見が交換されました。

isumi-style.com

当NPOが2010年8月より運営するWEBサイトです。「いすみ暮らし」を楽しくする情報を満載、毎日800人前後の人が見ています。また、いすみのイベント情報をご紹介するメールマガジン「isumi-style通信」（350人以上の登録）の購読申込も受付中。

編集・発行　NPO法人いすみライフスタイル研究所
〒299-4692 千葉県 いすみ市 岬町長者549（いすみ市役所岬庁舎内）
ＪＲ外房線長者町駅下車徒歩10分
平日・土曜日 9時～17時まで　Tel 0470-62-6730　Fax 0470-62-6731
Website ☞ http://www.isumi-style.com
E-mail ☞ isumi-style@bz03.plala.or.jp
2014年3月　第9号　不定期発行　発行責任者　君塚正芳

メールマガジン「isumi-style通信」は、携帯からも購読できます。QRコードからアクセスして、お申し込みください。

【会員募集中】

当NPOでは、持続可能な地域づくりに向けて、一緒に活動する、又応援してくれる会員（正会員・賛助会員・サポーター会員）を募集しています。
詳しくはサイトをご覧になるか、NPO事務所にお問い合わせください。